

広報



特集 にぎわいの鼓動

掛け声で雨を吹き飛ばせ！

町内各地の熊野神社で5月3日に例祭がおこなわれ、深沢地区では神社の樽神輿たるみこしが子ども会の手によって地区内を練り歩きました。心配された雨も朝には上がり、軽快な太鼓の音と子どもたちの威勢の良い掛け声が地区内にこだましていました。



平成30年

5

No.687

にぎわいの鼓動

～大江町まちなか交流館「^ア^テ^ラATERA」～

現在もおこなわれている旧正初市やひな市をはじめ、かつての左沢ではさまざまな市いちが開かれていました。最上川舟運で栄え、商人たちが集い活気に満ちていた左沢。流通の主役が舟運から陸上交通に変わった後も、多くの市や商店が立ち並んだ通りは人々の往来であふれていました。そんな市のにぎわいと、街並みの移り変わりをじっと見つめ続けていたモダンな建物があります。地域経済の要である銀行として、商店街で大切な役割を果たしてきた建物です。

商店街に、まちに、にぎわいを再び——そう切望する皆さんが集い、この建物を活用することで願いを現実のものにしようと思った「みんなでまちづくり交流会」。あれから3年が経ち、ついにその願いが形となって姿を現しました。「まちなか交流館」と名付けられたこの建物から、新しい物語が始まろうとしています。



▲銀行店舗の改修によって生まれ変わった「まちなか交流館」の1階部分



▲平成27年10月に開かれた第1回「みんなでまちづくり交流会」

まちの繁栄の生き証人

今から10年前、左沢内町の一面にあった銀行が閉店となりました。それ以来、閉店当時の行名から「旧きらやか銀行大江支店」と呼ばれることになったこの建物。建築されたのは今から80年以上前のことです。

ここには明治時代から銀行が建っており、昭和11年の左沢大火の後に鉄筋コンクリート2階建ての店舗が再建されました。それから半世紀以上にわたって、この銀行は地域経済活動の中心的機能の一翼を担ってきました。石造りを思わせるコンクリートの外壁に、規則的に並んだ四

角い窓。遠くからでもよく見える、レトロな赤いトタン屋根。身近な銀行として長年親しまれ、商店街の一部にすっかりなじんだ存在でした。

閉店後は、白い外壁に覆われたモダンなたたずまいを残すのみとなった銀行店舗。平成25年にこの建物が町に寄贈されてから、利活用へ向けた取り組みが活発化します。おりしも、町の商店街に活気を取り戻すためのアイデアが模索されていた時期。商店街に住む方のみならず、幅広い年代、地域の皆さんが意見を寄せ合い、銀行店舗を中心とした新たなまちづくりを目指す交流会がスタートします。

理想のまちへ歩み出す

私たちはどんなまちに住みたいだろうか——銀行店舗の利活用方法を考える「みんなでまちづくり交流会」は、こうした問いかけから始まりました。

平成27年、町では東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科に銀行店舗の利活用によるまちづくり推進事業を委託。同学科の岡崎エミ准教授と学生たちが、町内でヒアリング調査をおこない、まちづくり交流会

のコーディネーターを務めました。

同年10月、役場大会議室で第1回目「まちづくり交流会」を開催。50人以上の町民の皆さんの参加のもと、学生たちの目から見た町の現状を再確認。住んでいる人の視点からだけでは見えにくかった町の魅力や課題が、数多く浮かび上がりました。

浮かびあがった青写真

この年、5回にわたって開かれたまちづくり交流会の話し合いでは、「皆さんの『理想のまち』とはどんな町か」というビジョンが念頭に置かれました。その理想像を実現するための施設として銀行店舗を位置付け、さまざまな形で交流を重ねながらアイデアを出していきました。

そして参加者から寄せられた数々の銀行利活用案が芸工大生によって取りまとめられ、一つの図案ができあがりしました。1階にはカフェとバー、町の魅力を発信する案内所を備え、2階はさまざまな催しに利用できるレンタルスペースとして利用するというものです。この原案と施設内レイアウトは、平成28年1月に開かれた報告会の中で町民の皆さんに提示されました。



▲「縁屋」で開かれた昨年のまちづくり交流会の様子

縁をつくり広げる交流

平成28年度、2年目を迎えたまちづくり交流会は形を変えて新たな段階へ踏み出します。参加者は「DIY」「カフェ&バー」「仕事・観光・移住」「イベント」の4チームに分かれ、それぞれの角度から理想のまちづくりを実現する企画を次々と考え出していきました。

これと並行して、まちづくりについての会合や社会実験をおこなう拠点づくりのため、閉店した青果店の店舗を芸工大生を中心に交流会メンバーも協力して改装。「縁屋」と名付けられたこの施設には芸工大生が

常駐し、地域の皆さんとの交流をより深めていきました。

そして12月、地域活性化のためのさまざまな可能性を探る社会実験「縁づくり大作戦」を、この縁屋で実施。町内外から訪れた来場者からの評価をもとに、銀行店舗リニューアルによる活性化のビジョンを具体化していきました。

マルシェで舟運を再現

平成29年度には銀行店舗改修の基本設計が固まり、いよいよ工事の着工が近づきます。3年目となるまちづくり交流会では、マルシェという形式での新しい社会実験に向けて動き出しました。マルシェは「市場」を意味するフランス語で、地域で自ら生産した農作物や加工品、工芸品などを持ち寄って販売するイベントのことを指します。

かつて最上川舟運によって多彩な品々や文化がもたらされ、たくさんの人々で大いににぎわった左沢。水運による物と人の交流を現在の左沢に置き換え、町外から訪れる人々との交流によって活気を生み出すのが、マルシェを開催する目的でした。銀行店舗跡地において盛大に開か

舟運のにぎわい、再び。



▲昨年7月に旧銀行店舗で開催された第1回「左市」。行列がいくつもの大盛況となりました



Interview

ポ ー ト
Port
理事長

小國利宏 さん
(7区)

商店街の活性化は私たちにとって長年の課題であり、平成18年の「板塀プロジェクト」など、今までにも多くの企画や社会実験を試みてきました。しかし3年前の第1回まちづくり交流会には、あらゆる地域から有志の皆さんが数多く集い、銀行店舗の利活用という手法にこれまでと違う手ごたえを感じました。今後も若い人や町外から来た人の視点を大事にして、情報発信や企画運営を進めていこうと考えています。

まちなか交流館の運営団体名である「Port」は、舟運による繁栄をもたらした町の港をイメージしたものです。昔の往来の雰囲気に戻り、町へ移住する人たちが増えて、活性化の波が町全体にどんどん広がるようにしていきたいです。



▲昨年11月に開かれた第2回「左市」でにぎわう内町横町通り

れたマルシェ——その名は「左市」。左沢にちなんで名付けられたこのイベントは、町内の商店や団体、個人のほか、町外からも出店者を招くことで、新たな交流を生み出すことを目指して企画されました。

いち
市の活気がよみがえる

7月9日に開催された第1回左市には約30の出店者が集い、会場となった銀行店舗の駐車場には各出店者のブースが所狭しと並びました。出店内容も、飲食物をはじめ小物やアクセサリー、体験コーナーと多種多様。当日の来場者数はおよそ千人

にもものぼり、まちづくり交流会メンバーによる「左市実行委員会」の想像を超える盛り上がりを見せました。会場内に長蛇の列がいくつも並び、子どもたちや若い世代がにぎわう様子は、かつて活況を呈した左沢の「市」を彷彿とさせるものでした。

来場者へのアンケートの集計によると、回答者の約半数が町外から足を運んだ方であり、中には県外から訪れたという方も。魅力的な出店者とターゲットにあわせた情報発信によって、左沢にも若い世代が来る可能性を見出すことができました。

11月19日には、第2回左市を内町横町通りで開催。雪が舞うあいにくの天候にもかかわらず、この日も町内外からたくさんの人々が来場しました。

まちなか交流館の誕生

旧銀行店舗の改修工事は平成29年8月に着工し、今年3月に完了しました。店舗はその特徴的な建築様式や建物が果たした歴史的な役割から、重要な文化的景観の構成要素の一つに認定されています。歴史的な価値を持ちながら今も街並みの中に息づく建物を、後世のために保存・継承す

ることも改修工事の重要な目的です。そのため、建物の外観や構造を保ち、不足していた耐震性を強化して、誰もが安心して快適に利用できるような施設にするための工事が進められました。

1階は、カフェと観光情報発信、特産品の展示のためのスペースとして利用するために改修されました。壁面を白く塗装し、床には光沢のある木目の床材を使用。温かみのある雰囲気の中でくつろげる内装となっています。また、天井は建築当初の凹凸のある構造を生かし、そこから照明を吊り下げて内部を照らすというアイデアが採用されています。奥にはカフェのためのカウンタースペースが設けられ、応接室は厨房として使用できるように改装。北側に隣接していた木造部分は解体し、新たに多目的トイレを設置しました。かつて銀行だった名残である金庫はほぼそのままの形で残され、レンタルスペースとして利用できるようなっています。

2階の広々としたギャラリイは、床材に西山杉を使用し、明るく開放的な多目的スペースに改装されました。利用料金を支払うことでイベントや会議などさまざまな用途に利用



▲まちなか交流館での関係者による試食会。お客さんの年齢層などを考慮しながら、カレーやコーヒーの味を吟味しました



Interview

アテラ キッチン
ATERA Kitchen

二戸勝也 さん
(藤田)

老若男女問わず楽しめるハンバーグやオムライスを中心にしたメニューで、昔ながらの洋食屋さんのようなお店を目指しています。地元味あふれる雰囲気づくりをすることで、おばあちゃんがお孫さんを連れて気軽に来られるような、皆さんの暮らしに溶け込んだ場所にしたいですね。

この町に移住して2年ほどですが、まちづくり交流会を通して町の昔の姿を知る人たち、さまざまな得意分野を持った人たちと関わることができて、大きな刺激を受けました。今後も「ATERA Kitchen」の運営やメニューをさらに充実させていくのはもちろんですが、商店街や町の外との関係性を広げて、人と人とのつながりを広げる場所にしていきたいです。

漕ぎ出そう、 この港から。

することができま。 文化的景観の一部としてレトロな雰囲気を残しながら、現代風に生まれ変わった銀行店舗。まちづくり交流会に参加した皆さんの、町民の居場所と交流の拠点として活用したいという思いから、この施設の名称が「大江町まちなか交流館」に決定しました。施設愛称は「ATERA」。町民になじみ深い地名「左沢」からとったこの呼び名で、現代の舟運として町内外でのさまざまな交換・交流を促す交流の拠点とすることを目指します。

気軽に語らえる場所へ

まちなか交流館の中でも、まさに日常的な交流の中心ともいえる1階のカフェ。「ATERA Kitchen」と名付けられたこのカフェでは、町内でとれた野菜や山菜などを取り入れたメニューを提供する予定です。小さなお子さんと親子で楽しく過ごせるように、子どもスペースも設けられています。

中央通り商店街で飲食物を提供するお店が少なくなっている中、気軽に食事をしながら語らいつける場として、若い世代はもちろん、あらゆる年代の皆さんに利用していただけることが期待されます。

まちなか交流館に望まれる役割のひとつとして、町外から訪れる方々に向けた町の情報発信の場としての機能もあります。少しでも多くの人々に足を運んでもらえるよう、SNSなどを利用した情報発信によってPRをおこなっていきます。

この港から未来へ船出

まちなか交流館の管理運営を担うのは、まちづくり交流会で継続的に活動をされた町民有志の皆さんによ



Interview

ポ ー ト
Port
事務局長
石坂康平 さん
(柳川平)

「まちなか交流館」の大きな役割は、町の外から訪れる方、町の外へ情報を発信する方を結ぶことだと思っています。目指すところは、新たにお店を出す若い人たちがどんどん増えて、商店街が生活の場としての機能を取り戻していくことです。昨年開催した「左市」は、町内外から魅力ある個店を招き、一緒に学んでいく場として企画したものでした。

今後、若い世代や女性にも足を運んでもらい、出店に挑戦する人を増やしていく必要があります。そのためには、ここへ来てくれるだけの理由を作っていかなければなりません。これからも、まちなか交流館の運営とともに、より多くの皆さんに訪れてもらうための企画を考え続けていきます。



▲かつての銀行の名残りである金庫



▲親しみやすい味を提供するキッチン



▲誰でもレンタルして利用することができる2階の多目的スペース

まちなか交流館「ATERA」
5/27(日)グランドオープン!

式典・イベントを開催しますので、ぜひご来場ください。

式典

10時～10時45分

イベント

10時45分～ 一般公開

12時15分～ 福まき

13時～ トークショー



〈交通規制のお知らせ〉

グランドオープン式典のため、5月27日8時から正午まで、まちなか交流館前の通りが全面通行止めとなります。

○まちなか交流館「ATERA」

開館時間／9時～19時

休館日／毎週水曜日

12月29日～1月3日

☎(84)7770

○ATERA Kitchen

営業時間／11時半～22時

休館日／毎週水曜日

12月29日～1月3日

☎(84)7771

る団体「Port」です。3年間にわたって数々のワークショップや社会実験をおこない、その中で自らの技能や知識を増やしていきながら積極的にまちづくり活動に携わって来られました。こうして得られたチームワークやノウハウ、貴重な経験をもとにしてまちなか交流館を運営し、さらなる地域活性化のための活動をおこなっていきます。

のオープンには、「理想のまち」を目指す新たなスタート地点です。好評を博した「左市」などの定期的なイベント開催をはじめ、今後もさまざまな活動を通して交流を促進し、地域の活性化につなげていくことが大切です。こうした流れを移住者の増加に結びつけ、活性化の波が本郷、七軒地区にまでおよび、町全体が活気づくことを目指していきます。

まちなか交流館のレイアウトや活用方法のイメージは、意見交換やイベント開催を繰り返す中で絶えず進化を続け、現在の形に至りました。その始まりは3年前。「私たちはどんなまちに住みたいだろうか」という問いかけでした。まちなか交流館

左市で垣間見えた、昔日の左沢のにぎわい。あの活気にあふれた往来の様子が、私たちのまちの未来の姿となるよう、まちなか交流館は舟運を受け継ぐ新時代の「港」として、これからも新しい交流を生み出し続けます。



▲小型ポンプ操法



▲自動車ポンプ操法



▲幼年消防クラブ



▲内町横町通りで披露された全団員による分列行進



▲一斉放水

大江町消防団 平成30年度 春季消防演習

今年度の春季消防演習が、4月22日におこなわれました。消防演習は消防団員の士気高揚と技術向上、防災思想の一層の普及のために実施されています。この日は左沢小学校グラウンドで消防操法などが実演された後、内町横町通りにて一斉放水と分列行進が披露されました。沿道には多くの町民の皆さんが詰めかけ、団員たちの堂々たる雄姿に見入っていました。

平成29年度 消防関係表彰

消防庁長官表彰

- ◎永年勤続退団者／大泉雅裕、伊藤学、伊藤武敏、鈴木良勝、菊地拓朗、岡田照彦、蓮沼徹、工藤和明、菊地誠、佐竹辰也、柏倉栄一、公平勝、鈴木繁

山形県知事表彰

- ◎永年勤続退団者／大泉雅裕、伊藤学、伊藤武敏、鈴木良勝、庄司達夫、岡田照彦、柏倉栄一、佐竹辰也、早坂和彦
- ◎特別功労章／古口修、庄司隆弘
- ◎金条章／第1分団第1部
- ◎功労章／鈴木孝仁、佐藤和弘、小野真人
- ◎功績章／兼子貴行、佐藤勇一、松田敏典、村山茂暢
- ◎精錬章／白田和彦、松田章、柏倉修、高橋優一、吉野克一
- ◎家族功労者／鈴木裕美子

日本消防協会会長表彰

- ◎精績章／村山繁律

山形県消防協会会長表彰

- ◎竿頭綬／第2分団第5部
- ◎優良章／伊藤真一、高子紀彦、森道彦、清野能史、五十嵐啓

柏倉正志

◎永年勤続25年／古口修

◎永年勤続20年／関根修、白田和彦、高橋優一、吉野克一、大谷孝幸、松田秀樹、渡辺重敏、伊藤知久、荒木宏治、宇津江由明

◎永年勤続15年／最上健介、松田章、後藤純一郎、高子紀彦、後藤恒一、金山拓、渡辺智彦、鈴木康仁、前田司、竹田信勝

山形県消防協会西村山支部長表彰

◎竿頭綬／第4分団第3部

◎優良団員／太田清行、箱崎正篤、佐藤雄大、青柳達也、鈴木裕二、佐藤徳昭、鴨田圭太、渡辺智彦、後藤豊、鈴木俊一、堀智春、五十嵐稔、鈴木貴之、橋本光弘、松田憲、高橋吉彦

大江町長表彰

◎優良団員／上田惇史、伊藤直彦、菊地祥太、渋谷幸基、佐藤研、秋葉貴史、阿部義樹、五十嵐紘祐、菊地勇人、佐藤雅実、加藤秀和、宮下透、東海林和幸、大場茂智

大江町長感謝状

◎内助の功労者／関根美加、兼子偉久、高橋利枝

大江町消防団長表彰

◎優良機関／自動車分団第3部、第4分団第2部（敬称略）

1 ■土砂崩落による神通峡遊歩道全面通行止め ～引き続き土砂災害に警戒～

神通峡の遊歩道の一部で、4月23日に大規模な土砂の崩落が確認されました。このため、現在遊歩道を全面通行止めとしています。崩落の規模が非常に大きいことから、現段階では復旧に長期間を要すると考えられています。

また、崩落した土砂が月布川の一部をせき止めています。下流域の地区で川沿いにお住まいの方は、いつもと異なる川の濁りなどの異常を見つけた場合、川に近づかないよう注意し、下記にご連絡をいただくようお願いいたします。

☎建設水道課 ☎(6 2) 2 1 1 1

消防署大江分署 ☎(6 2) 3 1 2 0 (夜間)



2 ■大切な家族のために ～狂犬病予防注射～

今年度の狂犬病予防集合注射が、町内各地を巡回して実施されました。狂犬病という恐ろしい伝染病を防ぐため、生後91日以上の子犬の飼い主には、居住地での飼育犬の登録とともに、年1回の予防注射を受けさせることが義務付けられています。

4月11日の注射会場となった役場駐車場には、愛犬を連れた多くの方が来場しました。町の担当者は「犬は人間にとって大変身近な動物で、家族の一員ともいえます。飼い主の方にはマナーを守って適切に飼養していただきたいです」と話していました。



様々な分野で活躍され、表彰された町民の方々を紹介します

地方行政功労者表彰



柏谷 信男 さん (7区)

多年にわたる監査委員としての功績により、柏谷信男さんが総務大臣より監査事務功労者として表彰されました。

柏谷さんは平成9年10月から3期12年の永きにわたって大江町代表監査委員を務められ、町の事務事業全般について合法性や合目的性、合理性の観点から監査をおこない、公正で効率的な町政運営に多大な貢献をされました。

柏谷さんの在任中は会計処理の複雑化が進んだ時期でもあり、適正な監査をおこなうための規定などの見直しについても大きな役割を果たされました。また、今回の表彰について柏谷さんは「他の監査委員の方々からも貴重な意見を頂きながら、実効性のあるより良い監査を心掛けました。このたび思いがけず表彰をいただき、皆さんへの感謝とともに、在任中を思い出し感慨深いものを感じています」と話されていました。



3/28・29 江戸との意外なつながりを知る

町史資料室に寄贈された資料を紹介する企画「『元禄の江戸』に旅してみませんか?」が、3月28日と29日の2日間にわたり中央公民館町民ギャラリーで開催されました。この企画では、林家から寄贈された「江戸図」を中心とした資料が展示され、元禄期の江戸の様子や町とのつながりについてのギャラリートークもおこなわれました。

町史編さん事務局の庄司英二さん(藤田)は「江戸時代には、本町に住む人々も多く江戸を訪れていました。この企画が町の歴史について考える機会になれば嬉しいです」と話していました。



4/7 思い出をたくさんつくろう

子どもたちの新たな学校生活のスタートである入学式が、4月7日に町内の小中学校でおこなわれました。

このうち左沢小学校では、男子26人、女子18人、計44人の児童がこの春入学。6年生の児童が掲げる花のアーチと、ブラスバンドが奏でる校歌の演奏に迎えられ、少し緊張しながらも仲良く手をつないで入場しました。担任の先生から一人ひとり名前を呼ばれた新入生たちは、その後全員で「いちねんせいになったら」を歌い、学校生活の第一歩を元気よく踏み出しました。



4/10 安全への願いの実現に向けて

雪解けによって道路交通が活発化する時期を迎えるにあたり、今年度最初の交通安全街頭指導が4月10日に町内各所で実施されるとともに、町の交通安全祈願祭が左沢八幡神社で開かれました。

祈願祭では、町民の皆さんが署名した「交通安全宣誓署名簿」が町交通安全連絡協議会の鈴木正清会長(十八才)の手で奉納され、松田副町長をはじめ各種団体の代表者が玉串を捧げました。

昨年度の町内交通事故の件数は、前年度より9件少ない19件でした。今後も事故ゼロを目指し、皆さんの協力で交通安全活動がおこなわれます。



4/22 夏日の空に掛け声が響く

小漆川地区の白山神社例祭が、4月22日におこなわれました。白山神社は平安初期に建立され、旧暦3月に例祭がおこなわれていました。現在では祭りは4月下旬となり、平成元年から神輿とともに地区民が町を練り歩く形になっています。

「かつては神輿を担いで13区まで歩いていました。ちょうど30年となる今も、神輿を引っ張る形で続いています」と話す、小漆川区長の池田義孝さん。夏日を記録する暑さの中、神輿の行く先々で子どもたちの「ワッショイ、ワッショイ」という元気な掛け声が響き渡っていました。



4/25 今日から認知症サポーター

4月25日に中央公民館で開かれた町の食生活改善推進協議会の総会で、研修会として認知症サポーター養成講座が開かれました。この講座は、認知症を正しく理解し、認知症状のある高齢者が地域で安心して暮らせるように支える「認知症サポーター」を増やすために、町の地域包括支援センターが開いている出前講座のひとつです。

講座では、認知症高齢者への正しい接し方をセンターの職員がコミカルな寸劇で分かりやすく実演。終了後には、認知症サポーターであることを示すオレンジリングが会員に配付されました。



4/27 「いいもの」PRで活気を呼び込む

町内の商店街の街路灯に、新しいPRタペストリーが設置されました。タペストリーはJR左沢駅前や原町通り、内町横町通りなどの街路灯に掲げるために制作され、4月27日に町商工会の皆さんが合わせて61本を設置し、町内を彩りました。

タペストリーはえんじ色を基調とし、表裏にそれぞれ「国選定重要文化的景観の町」「おおえブランド いいもの発見大江町」と印字されています。町商工会会長の庄司孝さん(7区)は「たくさんの方に町の特産品などをPRし、商店街活性化のきっかけにしたいです」と話していました。



4/27~29 町のランナー大活躍!

第63回山形県縦断駅伝競走大会が4月27日から29日にかけて開催され、清野大地さん(堂屋敷)、菊地春紀さん(深沢出身)、佐藤和也さん(蛍水)、菊地将史さん(深沢)、大沼翼さん(美郷)、大泉真尋さん(小漆川)、菊地道登さん(梨木原)が寒河江・西村山チームにエントリーしました。このうち、大沼翼さんが第5区と第15区、菊地道登さんが第26区で区間賞を獲得するなど、本町のランナーが大活躍を見せました。

ランナーが町内を通過した28日には、多くの町民の皆さんが沿道から熱い声援を送りました。



4/14 緊張交じりの最初の一筆

平成30年度少年少女書道教室の開講式が、4月14日に中央公民館で開かれました。この教室は昨年度から「ぶくらすカレッジ」の講座のひとつとなっており、今年度は小学校3年生から6年生まで合わせて83人が受講します。開講式では20人の指導員と推進員の皆さんが勢ぞろいし、さっそく第1回目の教室が始まりました。

今年度、初めて書道教室を受講する3年生は22人。この日は筆の持ち方などの初歩を学び、指導員の手ほどきを受けながら、「三年」という字を真剣な表情で練習していました。

町長 コラム Column

接ぎ木に挑戦した。用意したものは、ナイフ・はさみ・のこぎり・接ぎ木テープの4点セットだ。購入したのは接ぎ木テープだけ。小学校のころ接ぎ木名人の側で見ていた知識、農家の名人に電話で教えていただいた得た間接経験、分厚い園芸全書の接ぎ木の説明……いくら机の上でお勉強をしたって制限がないほど「接ぎ木学問」はあるようだ。やってみて初めて本当の理解ということもあるう、やってみなけりゃ、ということにあいなつた。

まずは、イチヨウから。12年ほど前に3本植えて、3年前から1本の木に銀杏がなるようになった。聞けばイチヨウには雄と雌の木があって、当然雄には実がつかない。隣のお母さんの枝をお父さんへ接ぐ。男女共同参画植物物語の実践だ。柿、渋い庄内柿もおいしいが、渋抜きの手間がある、木からもいですが食べられる柿にも大いに魅力がある。甘柿の剪定した枝を、渋柿に活着させ、自家渋抜きを果たさせる。渋みあつての甘さとは思いつつ、「てつとりばやく」の時流合一作戦だ。

アケビは紫の色、早生、実の柔らかさが売りだという。山から取ってきたアケビの種をバケツに入れ、土と水を入れてかき回し庭のあちこちにばらまいたアケビは、野生の香りが強烈すぎて色づきも良くない。接ぐ穂木は友人から頂いた、早い時期に熟して真紫のところがアケビだと、友人は言った。

雨の上がった日曜日、「全知全能」の接ぎ木の神様が、どちらの方角に鎮座しますのか、太陽の上る東の天空にウィックしてナイフを取った。接ぎ木の基本の基本は「形成層を合体しろ」との天命を読み解いての接ぎ木作業だ。

イチヨウも、柿も、アケビも、何のおとがめもないのに、あー何と手と指を切り取られ、ナイフで削がれて、人様の好みと都合とエゴの成せる「接ぎ木」とは言いたくはないけれど……思いは少々複雑だ。持って生まれた天性あればこそ個性じゃないのか……、個性に何を加えて、何を削ぎ落とすか……、イチヨウも、柿も、アケビも何も言わなければいけません。3年後に、接ぎ木をした枝の先に、元の木の枝を接ぎ木してみるか、みないか、まだ決めてはいない。

大江町長 渡邊 兵吾

地域おこし協力隊通信

No.42



少しずつ沢から雪解け水が流れ、フキノトウやフクジュソウが顔を出し、もうすっかり春です。太陽の光をいっぱい浴びてのピクニック、さわやかな風が吹く新緑のトレッキング、山の恵みに感謝しながら山菜をお腹いっぱい食べる……これからの事を考えるだけでわくわくしてきます。

しかし、その一方で雪がどんどん消えていき、あの水墨画のような綺麗な雪景色ではなくなっていくのを見るとなんだか寂しいような気も。汗ぐっしょりになりながら雪かきをしたことや、水道管が凍り生活に困った事でさえ今思い返すと良い思い出です。

大江に来るまでは樹木や昆虫などといった、いきもので季節を感じていましたが、大江に来てからは食や地域行事、管理・農作業といった日々の暮らしの中にも季節を感じるようになりました。確かに楽しい事ばかりではなく、春や秋にはカメムシ、夏にはコスズロが大量に出て、冬には雪かきなど大変な面もありますが、季節の移り変わりを日々発見するのは楽しいものです。

地域おこし協力隊 村中亮竜



↑春の訪れを感じさせるフクジュソウ

短歌

立ち止まり咲き誇りたる桃の花切り花にして夫に捧げり

松田 靄

携帯にかたくりの花撮り収めりユック背負いて病む夫のもとへ

佐竹磨砂湖

出羽の地に数多の異人遊び来て霞の城の桜ながむる

山家 重之

親と子の心をつなぐ虹の橋小さな胸に夢ふくらませ

長岡かつ子

パパの晝春日を浴びて読みおればパパの我も微睡みにけり

菊地つねよ

この冬は殊更寒々身にしてみても迎え近しと友に問ひかけ

佐竹 與鼓

春風の天に昇るころ雪原に子等はきそひて凧揚げし夢

斎藤 徳治

俳句

テールライトオペラ幕おり春の宵 阿部 一風

訪ねくる夜中の強風弥生月 鴨田富士夫

雪つけし羽前の山みゆ春の夕 今井 茂樹

庭園の赤い椿は愛しけれ 松田 靄

嬰兒の瞳にひかる春の空 安藤 桂花

花の下ピンク帽子の園児ゆく 山家 重之

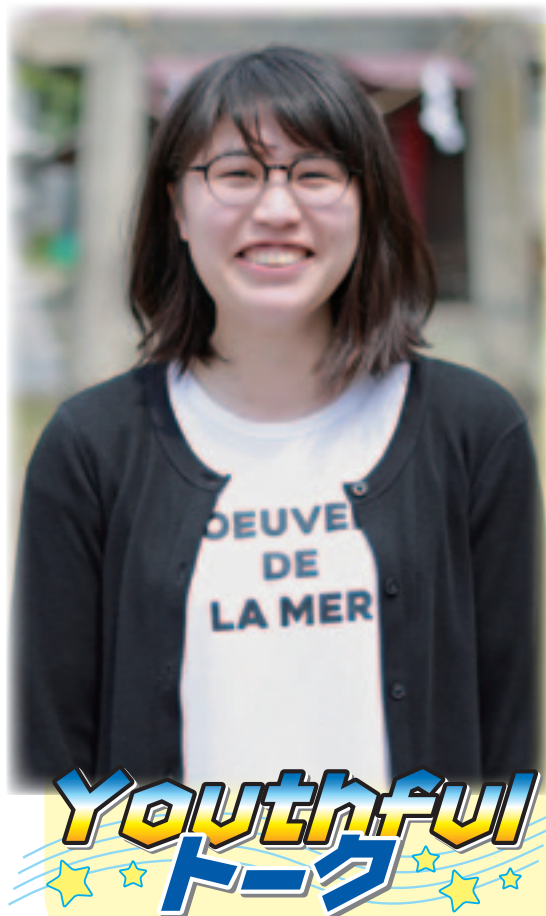
葉桜や机上に匂集ボールペン 舟山 三男

山笑ふ村に空き家がまた一軒 伊藤 啓泉

吟遊浪漫

ぎんゆうろまん

※このコーナーに掲載ご希望の方は、毎月20日(必着)まで役場総務課に作品をお寄せください。



山形市出身の布施さんは、東北芸術工科大学をこの春卒業し、町の魅力をPRしている団体「おいで、おおえ」のアシスタントディレクターとなりました。学生時代に本町の地域活性化活動に携わり、今も「縁屋」を拠点に町の魅力発掘と情報発信に勤しんでいます。

「もともとは音楽が好きだったんです。ライブなどに行っているうちに、『受け手』から『表現する側』になりたいと考えるようになって、自分の思っていることを形にする手段を探るうちに、たどり着いたのがカメラでした」

写真や映像の撮影を中心に、将来はイベント企画、物品販売などを取りまぜた「生業なりわい」を見出したいという布施さん。そのためにも、それらの軸となる撮影技術をもっと磨いていきたいと話します。

「広い視点を持って、町のいいものをたくさん見つけていきたいです。そして、カメラを通して『何を伝えたいのか』という、私自身の主軸になるものを見つけられたらと思っています」

布施 果歩さん
(23歳・10区)

レンズを通して広がる世界

シリーズ企画

月刊

仲間とエンジョイ!

No.15

町内でスポーツや文化活動などを楽しんでいる皆さんをご紹介します。

榎山田植踊保存会

会長：鈴木良勝さん（榎山）

榎山田植踊は豊作祈願や収穫への感謝を込めた農村芸能で、江戸時代寛永年間ごろに始まったといわれています。その後伝統が途絶えた時期もありましたが、昭和41年、架け替え工事がおこなわれた榎山橋の完成祝賀会に花を添えようと、地区ぐるみの保存会が結成され、復活しました。

現在は榎山地区民全員が保存会の会員となっており、踊り、唄、太鼓や笛はもちろん、衣装の着付けや会場準備など、地域の皆さんが一丸となって田植踊を支えています。会長の鈴木良勝さんは「若い後継者が少なくなっていますが、地元に残る人たちみんな協力して、この伝統を続けていきたいです」と話していました。



▲榎山田植踊の踊りや唄などを務める皆さん



▲4月29日、大勢の観衆の前で見事な踊りを披露しました

お知らせ

Information

大江町議会報告会のお知らせ

議会報告会を次のとおり開催します。ご来場をお待ちしています。

◆日時・会場／5月24日(木)19時～ふれあい会館、25日(金)19時～中央公民館

☎ 議会事務局 ☎(62)2228

大江町各種技能全国大会等 出場激励金のご案内

◆交付対象者／技能五輪全国大会や全国アピリンピックなどの全国大会、国際大会などに出場する出場者および出場者を雇用する事業所など

◆交付金額／①全国大会：個人1万円、団体2万円、事業所など5万円、②国際大会：個人3万円、団体5万円、事業所など10万円

◆申請／交付申請書に必要な書類を添えて、大会へ出場する前に政策推進課に提出してください。

※申請書は町ホームページまたは担当課で受け取ることができます。

※激励金の交付決定を受けた方は、

大江町商売繁盛創出支援事業 補助金のご案内



町では、起業や6次産業化、新商品開発、連携共同事業に取り組む個人や団体、事業所に補助金を交付します。

補助の対象となるのは、補助対象事業の実施に必要と認められる経費です。同じ要件を満たす国、県その他団体が実施する各種補助金を受けている場合は対象外となります。詳細は下記担当にお問い合わせください。

◆補助対象者

- ・町内に住所を有する個人、または町内に所在する団体、事業所
- ・新たに町内において居住または設立しようとする個人、団体、事業所
- ・連携共同事業支援事業については、町外の事業者と連携共同する取り組みの場合も対象

◆補助対象事業および補助率、補助限度額

区分	内容	補助率	補助限度額
起業支援事業	新たに事業を開始しようとするものに対する補助。すでに事業を営む場合に、その全部または一部を継続して実施しつつ、新たな事業を開始しようとする場合も対象	2/3	50万円
6次産業化支援事業	6次産業化の推進を図るため、農畜産物の生産者がおこなう加工や販売面での新たな取り組みに対する補助	2/3	50万円
新商品開発支援事業	新商品の開発に取り組む場合の補助	1/2	20万円
連携共同事業支援事業	複数事業者が連携、共同して販売促進などの取り組みをおこなう場合の補助	1/2	20万円

☎ 政策推進課起業推進係 ☎(62)2139

大会終了後成績を報告してください。
※交付要件などの詳細については、町ホームページをご覧ください

☎ 政策推進課起業推進係 ☎(62)2139

振り込み詐欺や不審な電話にご注意ください

公的機関を装い、口座番号や金融機関名を聞き出そうとしたり、ATMの操作を促したりする電話などは、振り込み詐欺の特徴です。

このような不審な電話や訪問があった場合は、口座番号などは絶対に教えないようにしましょう。また、相手の名乗った所属・団体などを確認し、家族や知人へ相談するようにしましょう。

☎ 総務課危機管理係 ☎(62)2187

平成30年工業統計調査を実施します

平成30年工業統計調査は、従業者4人以上の全ての製造事業所を対象

に、平成30年6月1日時点で実施します。

この調査は、我が国における工業の実態を明らかにすることを目的とする政府の重要な調査で、統計法に基づき報告義務のある基幹統計調査です。調査の結果は中小企業施策や地域振興など、国および地域行政施策のための基礎資料として活用されます。調査票に記入いただいた内容は、統計作成の目的以外(税の資料など)に使用することは絶対にあ



第35回 正調最上川舟唄 全国大会

今大会では一般の競技に加え、宮城県亙理町えんころ節大会優勝者や、栃木県佐野市越名舟唄全国大会優勝者のほか、特別ゲストとして本町にゆかりのある民謡歌手・清野明子さんがやってきます。

町内団体からは、大江男声コーラスの最上川舟唄男声合唱、大江中学校生徒による最上川舟唄混声四部合唱、大江町祭事振興会Moverによる舟唄のヒップホップダンスなどさまざまなアトラクションを実施する予定です。ぜひご家族そろってご来場ください。

◆日時/6月24日(日)8時50分～

◆会場/ふれあい会館

◆チケット料金/前売券500円
当日券800円

※前売券は大会前日の6月23日までテルメ柏陵健康温泉館、交流ステーション、ふれあい会館でお買い求めいただけます。

問 第35回正調最上川舟唄全国大会事務局
(政策推進課内) ☎(62)2139

廃棄物の不法投棄は犯罪です。5月1日～6月5日は「不法投棄および海岸漂着ごみ削減強化月間」です。不法投棄などを見かけた場合にはご連絡ください。投棄者名や車両番号を控えていただければ、早期解決につながります。

◆対象事業/①屋根の塗り替え(赤や青などから、黒または濃灰色への塗り替え)、②板塀の設置または修繕、③生垣の設置、④土蔵などの補修または復元

◆交付対象者/町内にある住宅や店舗などの所有者、町内にあるコンクリートブロック塀または板塀および生垣、土蔵などの所有者

◆補助金の額/①経費の4分の1(限度額10万円)、②③経費の2分の1(限度額30万円)、④経費の2分の1(限度額50万円)

不法投棄および海岸漂着ごみ削減強化月間

総務課情報システム係
☎(62)2187

大江町優良景観形成補助事業

または、総務課危機管理係
☎023(621)8427
☎(62)2187

5月31日は世界禁煙デーです

毎年5月31日は、世界保健機関(WHO)が定める「世界禁煙デー」です。また、厚生労働省では、5月31日～6月6日の1週間を「禁煙週間」としています。

喫煙は、がんをはじめ循環器疾患や呼吸器疾患の要因となるほか、妊婦や胎児に悪影響をおよぼします。この機会に改めて「たばこ健康」について考えてみませんか。受動喫煙防止にもご協力をお願いします。

問 健康福祉課保健衛生係
☎(62)2114

ハローワーク寒河江就職面談会

一般求職者を対象とした就職面談会が開催されます。就職相談やUI-Jターン対象者への支援相談、職業訓練相談、年金相談、介護や看護の就職相談、生活相談、ひとり親家庭就労サポート、若年者正職員化サポートなども実施されます。

◆日時/5月25日(金)13時～15時
◆会場/寒河江市文化センター
◆参加企業/30社程度

◆企業ごとに設置されたブースで個別面談ができます。
問 ハローワーク寒河江 ☎(86)4221



編集後記

左 沢八幡神社境内の北側にある桜の木。樹齢百年にもなるという木の幹は、苔に覆われて黒ずんでいます。今も春には見事な花を咲かせています。近所を通りかかった方が、子どものころにここで花見をしていた思い出を話してくださいました。カラー写真がまだ普及してない時代のことですが、当時と同じ色彩の花が今ここに咲き誇っていると考えると、ひとときの時間旅行を体験した気分になりました。

(伊藤智治)

思い出の まいぞうひん My 蔵品

No.31

皆さんの心に残る思い出の品を、それにまつわるエピソードとともにご紹介します。

小林繁樹さんは、昭和19年に海軍に志願し、水兵として太平洋戦争に従軍しました。戦時中は、戦艦大和への乗艦や横浜大空襲などを経験したそうです。終戦後、繁樹さんは豊子さんと結婚し、養豚や果樹農業を経営。今年2月に90歳で亡くなりました。



▲海軍の制服を着た小林繁樹さん。16歳で舞鶴海兵団に入団し、横浜で終戦を迎えた繁樹さんは、家族や友人に戦時中の体験をよく語っていたそうです



▲繁樹さんが出征する際、同じ地区の人たちが縫った「千人針」。戦闘の際、繁樹さんはこれを腹に巻いてお守りにしていました



▲(上) 繁樹さんが着用した制帽
(下) 夫・繁樹さんの思い出を語る豊子さん

じいちゃんが健康なころは、兵隊に行ったこと、横浜での終戦後のことなど、いつもいろいろ話してくれました。私も学校で時間中に「千人針」をしたこと、兵隊さんを送り出したこと、いつも思い出します。このたびもじいちゃんが出征するときにみんなが寄せ書きした国旗や、千人針などを思い出し、皆さんに見ていただきたくて出させていただきました。ありがとうございました。

(望山 小林豊子)

★皆さんの思い出の詰まった「宝物」はありませんか？ 懐かしい写真、長年愛用している道具、旅先で購入した記念の品など、なんでも結構です。総務課情報システム係 ☎(62) 2187まで、ぜひお知らせください。

戸籍のまど

3月21日～4月20日受付分

お誕生おめでとう

区名	氏名	性別	父母名
蛭水	佐藤 想依 ^{そよ}	女	拓郎・菜々
みなみ	鈴木 悠莉華 ^{ゆりか}	女	恒一郎・一美
山崎	菅野 陽太 ^{ひなた}	男	智也・菜

ご結婚おめでとう

区名・出身地名	氏名
(みなみ)	鈴木 恒一郎
(愛媛県)	酒井 一美

ご冥福を祈ります

区名	氏名	年齢
藤田	小林 さたよ	(95)
9区	佐藤 イシ	(87)
梨木原	清野 ヤスエ	(98)
藤田	佐藤 愛男	(77)
9区	小野 キヨ	(87)
9区	小林 進吾	(66)
8区	菅野 昌弘	(63)
月が丘	長岡 チヤヲ	(93)
3区	兼子 由紀子	(90)
9区	安藤 春子	(103)



人口と世帯(前月比)

町の人口	8,313人(-9)
男	4,132人(+1)
女	4,181人(-10)
世帯数	2,928戸(+7)

平成30年5月1日現在

※掲載を希望しない場合は、届け出の際にお申し出ください。